

# えりも

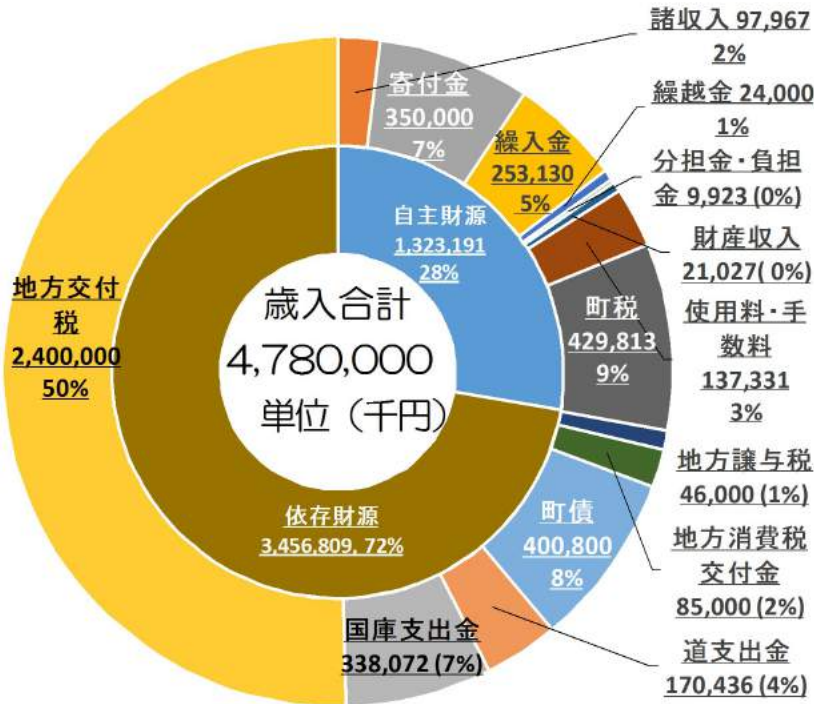


- 2 **平成28年度予算概要**  
前年比1億1千2百万円増加
- 4 **3月定例会の概要**  
議会改革特別調査委員会  
調査報告、条例改正他
- 5 **ズバリ！えりものここが聞きたい**  
一般質問 5名・10件
- 10 **「議員と語る会」報告**  
地区別の要望やアイデアを集約
- 12 **「この人に聞く」**  
ALT（外国語指導助手）  
マディソンさんにインタビュー



# 1億1千2百万円増 (前年比1,6%)

## 入ってくるお金



### ●新規事業



### ●その他の新規事業

- 妊婦健診交通費助成事業 (担当・保健福祉課) 86万円  
妊婦さんの健康診断や出産準備に係る交通費の助成。
- 小児任意予防接種助成事業 (担当・保健福祉課) 74万円  
ロタウィルス (感染性胃腸炎) 及びおたふくかぜの任意予防接種費用について助成。
- 結婚活動支援事業 (担当・企画課) 150万円  
結婚を希望する町内男性に対する婚活支援を通して、町が抱える後継者対策、過疎対策を図る。
- まちづくり活動事業支援補助金 (担当・企画課) 90万円  
町内住民活動団体 (5名以上の団体) が自主的に行う創意工夫にあふれたまちづくり活動を支援する。
- 介護職員等奨学資金貸付事業 (担当・保健福祉課) 48万円  
介護福祉士または社会福祉士の養成施設に在学する方に修学資金を貸し付け、町内の介護専門職の確保と充実を図る。
- 漁業後継者育成対策事業 (産業振興課) 90万円  
北海道立漁業研修所が実施する総合研修受講者に対し、その受講料の一部を助成し、漁業後継者の確保と育成を図る。

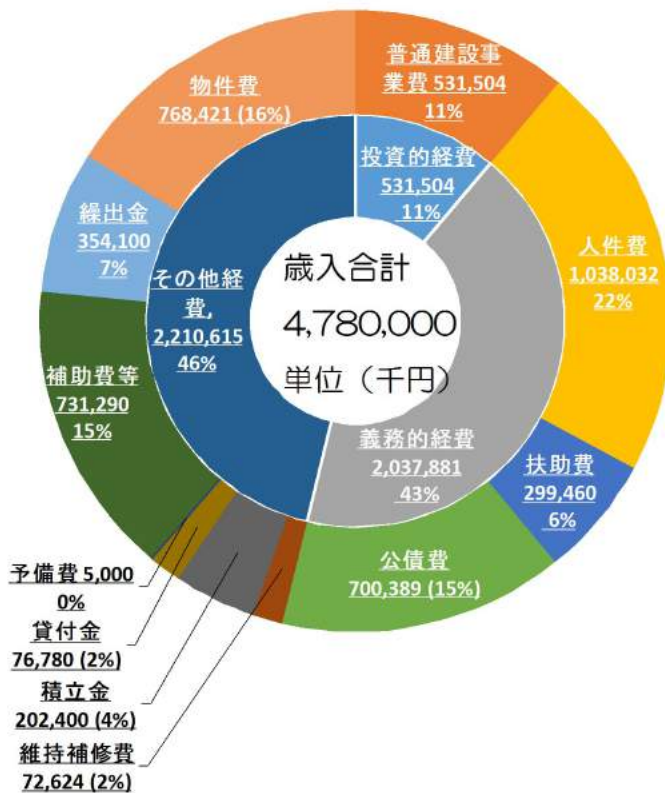


# 平成28年度えりも町予算承認



えりも岬保育所遊戯室等  
改修工事480万円

## 出ていくお金



## ● 予算総括表 単位(千円)

会計区分	予算額	前年比
一般会計	4,780,000	80,000
国民健康保険特別会計	1,256,000	86,000
簡易水道特別会計	123,000	▲6,000
診療所特別会計	357,000	▲44,000
下水道特別会計	194,000	▲3,000
介護保険特別会計	366,000	1,000
後期高齢者特別会計	57,000	▲2,000
小計	2,353,000	32,000
総計	7,133,000	112,000

えりも町の第5期総合計画は平成27年度で、最終年次を迎えます。今後も中長期的に町のありべき姿と、その実現に向けた計画、えりも町第6次総合計画を基本とした、新たな年に向けてのスタートにあたる大事な時期に、予算特別委員会の委員長に選任いただき、一般会計、特別会計を合わせた7会計案について審議いたしました。

現政権の発表によると日本経済は、着実に上向いていると言いつつ続けれられていますが、地方においてははその気配すら感じ取れていません。自主財源が少ないえりもにおいて、地方交付税に依存するところが大きい中での新年度予算編成作業には、大変なご苦労をされた事と思います。審議の中では、各議員から厳しい指摘や建設的意見をいただきました。このことをしっかり受け止めて、予算を具現化していただけることと思います。審議の中、委員、理事者、説明員のご協力を賜り無事勤めを終えることが出来ました事に感謝申し上げます。

結びにあたり、私も議員はもとより、町民皆様と共に町が抱える課題を共有し、えりも町が発展できるように努力をして参りますので今後とも、議会、えりも町へのご協力を心よりお願い申し上げます。



予算特別委員会委員長 平野正男

## 予算特別委員会を終えて





# えりも町議会第6回定例会

## 補正予算

- ・えりも岬第一レストハウス解体工事 1280万円
- ・風の館シャッター修繕料 122万円
- ・複合施設整備基金積立金 5000万円
- ・国民健康保険特別会計繰出金 9000万円
- ・診療所特別会計繰出金 6000万円
- ・えりも中学校体育館照明等耐震化事業 2100万円
- ・海外研修旅行助成金  
えりも高校海外研修旅行中止の為 ▲675万円

## 条例改正

- ・えりも町議会委員会条例の改正  
「総務文教常任委員会 6人」、「産業民生常任委員会 5人」に加えて、「広報広聴常任委員会 5人」を新設。

・えりも町保健師、看護師等奨学資金貸付  
条例

保健師、看護師及び準看護師を養成する学校等に在学する者に対する奨学資金の貸付けを、社会福祉士及び介護福祉士にも拡大。

## 人事

副町長の選任  
えりも町字新浜  
大西 正紀氏 (62歳)

公平委員会委員の選任  
えりも町字新浜  
齊藤 敏克氏 (65歳)

## 議会改革特別委員会調査報告

平成27年6月、議会改革の推進について調査・検討するため、全員による議会改革特別委員会を設置し、4回にわたって慎重に議論を重ねた。

### 1. 議員定数について

議員定数は、人口規模が一つの目安とされるが、居住区が広い当町においてそれだけで定数を定めることは適正でないとする。「議員と語る会」や「議会だよりの発行」など議会活動が活発化し、より広範囲で多様な町民のニーズを行政に反映させるためにも現行のまま11名とする。

なお、今後、人口が5,000人を割り、4,500人くらいまで減少した際には、議員定数の削減に向けて慎重に検討することとする。

### 2. 議員報酬について

平成17年から減額し、現在まで据え置いてきたが、今回の調査で道内の同規模の町村と比べて高額である為、平成29年4月から月額を19万円から18万円に減額する。期末手当は、平成17年から自主的に削減(月額の2ヶ月分)してきたが、町職員の減額措置がすべて解消されたことから、平成29年4月より本来の額(月額の3ヶ月分)に戻す。

### 3. 議会広報特別委員会を常任委員会に

現在、議会広報特別委員会を設置して年4回「議会だより」を発行しているが、議員と語る会等の広聴活動の強化を図るため「広報広聴常任委員会(定員5名)」を新設する。

### 4. 議員と語る会の実施のあり方について

町民との対話の機会はとても重要であることから、大きな地区単位での開催だけでなく、女性団体や産業団体など対象団体やテーマを絞ったコンパクトな会合を企画するなど、参加者を増やす努力をしながら引き続き実施する。





# ズバリ！えりもの ここが 聞きたい

一般質問は、議員にとって、住民から重大な関心と期待を持たれる大事な議員活動の場です。町政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求め、議員自らの政策提言を行い政治姿勢を明らかにするものです。

## 問 町営による合葬墓の設置を



近藤一郎議員

## 答 町民のニーズの高まりを待つ

問 近藤議員

最近、「墓じまい」や公営の合葬墓の設置などのCMやニュースを見かけることが多くなった。従来の墓守がいて、先祖代々の墓を受け継ぐという意識が変わり始め、新たなスタイルとして合葬墓に入るといふ選択をする人が増え始めている。近年の人口減少の進展や人口構造の変化、また、単独世帯や生涯未婚者の増加等による家族形態の変化や、老後や終末期の死の迎え方に対する意識が時代の流れとして多様化していることが挙げられる。経費等の問題も踏まえ、公営の自治体管理による合葬墓は、経済的、社会的弱者を救済するセーフティーネットでもあるといえる。



近年、ニーズの高まってきている合葬墓

道内では、八雲町で合葬墓に対するパブリックコメントを募集しており、「八雲町合葬墓条例」制定に向けて動き始めているようである。

これまでの日本人の風習として墓地の維持管理を通じた先祖供養により、人としての本質的な部分である先祖を敬う心や道徳心、基本的な倫理観等を養い、さらには家族の絆や地域とのつながりを確認することは普遍的な価値観として欠かすことができない。しかしながら、人口

構造や家族形態が変化する中では墓地の維持管理を担えない、担う跡継ぎがいけないという現状は事実である。生涯を通じた安心の実現に向けた一連の課題として、積極的な取り組みを展開し、墓地を地域全体で守り、無縁化した墓の無い新しい墓地のあり方を検討していく必要があると思うが町の見解は。

答 町民生活課長

合葬墓とは個人や家族単位で個別に墓石を建てず、血縁のない人や知らない人同士の遺骨をまとめて埋葬するお墓の事である。これに対して寺院等の宗教法人によって管理される永代供養墓は、お墓を管理するだけでなく、供養するという宗教的行為が含まれる。公営の合葬墓の場合、遺骨の管理はされるが供養といった宗教

的な概念は含まれないことから、これに係る利用費用は、申し込みのときの使用料のみとするところがほとんどのようである。当町の現状としては、

身寄りのない方が亡くなった場合は町で火葬をし、本町墓地の一角にある無縁墓地に遺骨を埋葬管理しているが、遺骨の合同埋葬等に関する問い合わせは、現在、役場には届いていない。

また、合葬墓を希望しない最も大きな理由として、一つには、他人と一緒にお墓に入ることへの不安感や嫌悪感であり、二つ目には、合葬墓に埋葬したとしても亡くなった故人と向き合って供養することができないという思いがあるのかと思う。よって合葬墓については町民からのニーズの高まりをみながら、具体的な検討を進めていく。



# 問 18歳新有権者の教育は



鈴木勇高議員

## 答 適切な指導となるよう努力する

**問** 鈴木議員  
 本年から18歳の人が新有権者になるが、有権者となる高校生教育をどのように考えているのか。

**答** 教育長  
 本年度からの方向としては、総務省と文部科学省が連携して作成した「高等学校等の生徒向け副教材私たちが拓く未来」等を活用している。また高校生教育指導の留意事項としては、教育基本法等に定める学校の政治的中立の確保が重要であり、特に教員の言動が生徒に与える影響が極めて大きいことなどから、指導に当たる教員は、法令に基づく制限などがあることに留意することが求められる。指導主事訪問を活用するとともに、研究会等に積極的に参加しながら適切な指導を進める。

本年から18歳の人が新有権者になるが、有権者となる高校生教育をどのように考えているのか。

本年度からの方向としては、総務省と文部科学省が連携して作成した「高等学校等の生徒向け副教材私たちが拓く未来」等を活用している。また高校生教育指導の留意事項としては、教育基本法等に定める学校の政治的中立の確保が重要であり、特に教員の言動が生徒に与える影響が極めて大きいことなどから、指導に当たる教員は、法令に基づく制限などがあることに留意することが求められる。指導主事訪問を活用するとともに、研究会等に積極的に参加しながら適切な指導を進める。

# 問 クマザサの有効活用を



## 答 地場産業としてのクマザサの活用は難しい

**問** 鈴木議員  
 えりも町に大量に繁殖しているクマザサは健康食品に良好なので地場産業として若い人の雇用の場としても推進するべきではないのか。

**答** 産業振興課長  
 近年、ササを食品、飼料、工業原料として積極的に利用しようという動きがでている。当町は北海道に自生する4種のササすべてが自生するという全道でも珍しい地域である。えりも町で自生しているのは俗称クマザサ（正式名称クマイザサ）で、目黒や庶野の沢の奥に一部生育しているのみで資源が少なく、安定的に供給できるとは考えにくく、搬出にも不便なところが多いことから、地場産業として不適切であると考ええる。

えりも町に大量に繁殖しているクマザサは健康食品に良好なので地場産業として若い人の雇用の場としても推進するべきではないのか。

近年、ササを食品、飼料、工業原料として積極的に利用しようという動きがでている。当町は北海道に自生する4種のササすべてが自生するという全道でも珍しい地域である。えりも町で自生しているのは俗称クマザサ（正式名称クマイザサ）で、目黒や庶野の沢の奥に一部生育しているのみで資源が少なく、安定的に供給できるとは考えにくく、搬出にも不便なところが多いことから、地場産業として不適切であると考ええる。



# 問 根株（カブタ）の有効活用を

## 答 学術機関の研究を応援し事業化に期待していく

**問** 鈴木議員  
 昆布の根株（カブタ）は現在有効利用されていない。これを資源として活用すべきではないのか。

**答** 産業振興課長  
 昆布の根株（カブタ）については、東京農業大学や大手薬品会社による研究開発が行われているが、根株から土砂等の不純物を取り除く作業に手間と経費がかかり活用に至っていない。町も漁協も研究体制の一員としてこの研究を応援しており、今後の事業化に多いに期待しているところである。

昆布の根株（カブタ）は現在有効利用されていない。これを資源として活用すべきではないのか。

昆布の根株（カブタ）については、東京農業大学や大手薬品会社による研究開発が行われているが、根株から土砂等の不純物を取り除く作業に手間と経費がかかり活用に至っていない。町も漁協も研究体制の一員としてこの研究を応援しており、今後の事業化に多いに期待しているところである。

今後の調査研究等によって、効率よく有効活用出来れば、漁業者の収入アップと漁業経営の安定化に貢献できるので努力していく。





大坂庄吉議員

# 問 リハビリ施設の開設を

## 答 設備基準を満たすのは厳しい

問 大坂議員

高齢化社会に入り当町においても高齢化率が年々上昇を続けている。疾病となると様々あるが、それが原因で体が不自由になり、リハビリを続ける必要があるにも関わらず、入院日数の制限があるため退院することになったり、リハビリの受け入れ場所が見つからないなど聞くことがある。

答 保健福祉課長

①最も多いのは介護保険認定に関するもので、新規・更新なども含めて全体の6割程度である。次に多いのは介護保険サービスの調整に関するもので、ヘルパーの導入やデイサービスの利用、更には住宅改修に関する事、また介護ベッドや杖など介護福祉用品のレンタルに関する事などが4割程度ある。

# 問 小学校の英語教育について

## 答 慣れ親しませる



介護老人保健施設に併設するのが一般的であると思うが、専門職の配置の他に専任の医師も必須となっていることから、設置基準を満たすのは極めて厳しい状況である。町としては浦河町のリハビリテーション施設「緑苑」への通所について移動手段の確保と充実を図っていく。

問 大坂議員

小学校英語の教材化に向けた議論が進み次期学習指導要領の改訂も迫ってきている。グローバルな人材が求められる中、自然な英語に触れる機会としてALTを配置している。しかし新学習指導要領の先行実施により、平成30年度には学校における英語教材化が予想される。

・町学校教育研究会英語部会の小・中・高校の接続連携。



コミュニケーション能力が求められる英語教育

・中学校に過疎小規模加配で英語免許保有の教員を配置し、えりも小学校で協力、教授のT・T指導を行い、教員の指導力向上を図る。  
②音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるために英語に慣れる機会として活用を図る。  
③平成30年度は教科書検定、31年度は採択がある。文部科学省や北海道教育委員会の研修会の内容や資料等が配布されるのでそれに従って進めていきたい。



# 問 しごととバンク制度の設置を

## 答 今後、制度の内容をよく検討したい



高松亮裕議員

問 高松議員

答 産業振興課長

問 老朽化した水道管の更新は

答 優先順位を決めて時期を判断する

問 高松議員

答 建設水道課長

たい。

個人の方が臨時的に働いてくれる人を探したいという場合、例えば、昆布の岡回りやハタタやスケソウの魚はずし、草取りや屋内外の軽作業、除雪をしてくれる人がいないかなど、個人で探すことはなかなか難しい。こうした求人情報を「しごとバンク」に登録してもらい、広報や町のホームページで公開する。

求人情報のみをホームページ等で公開することは可能であるが、求人者と求職者との雇用関係の成立をあっせんする無料職業紹介事業を行うには、国の許可や職業紹介責任者の選任などが必要となるほか、適正な情報管理も求められる。すぐには、「しごとバンク」制度を実施することは難しいが、今後、制度の内容や他町での運営状況、町内でのニーズ等を検討する。

敷設から40年を超え水道管の老朽化率が全道的にも高いという新聞報道があったが、①当町の水道管の総延長と老朽化率は。②管路の老朽化が原因と思われる断水事故の年間発生件数は。③老朽化した水道施設の更新計画と課題は。

①当町は、西部・東部・目黒の簡易水道を管理しており、導水管・送水管・配水管の3種類に区分される。総延長は120・3kmで、耐用年数40年を経過した管が43・8km、割合は36・4%である。②断水事故は今年度1年間で5件発生しており復旧には数時間要している。

課題は、更新には多額の費用がかかることと、現在3つの水源と浄水場を管理しているなど、事業効率の悪さが挙げられる。施設の更新を計画する際には、地形上の問題もあるが、コンパクトで管理しやすい形態が望ましいと考えている。

さらに、昆布の岡回りをしたい、草取りや軽易な作業ならできるとい、仕事を求める人も登録しておけば、求人者と求職のスムーズなマッチングができ、町民にとって大変便利であると思うが、どうお考えか。



昆布時期には、岡回りの活躍が欠かせない

③現在、どこにどのような管が敷設されているのか、その施工時期がいづつのか等を整理している。近い将来、水道施設の更新を考えていかなければならず、優先順位をよやく見極めてその時期を判断していき



本町地区にある西部簡易水道配水池





石川昭彦議員

# 問 水産業の不漁時対策について

## 答 資源と緑は、守っていききたい



問 石川議員

答 産業振興課長

町の主要産業であるコンブ漁やサケ定置漁などの資源の維持増大を図るのは町として当然ではあるが、漁民の安定した生活のためには不漁対策が必要ではないか。旧肉牛牧場はえりも町の東西の水源地であり、川の水量の減少は近年著しく漁業にも大きく影響があると思われることから、植樹をすべきと思うが、ふるさと納税の一部を緑化基金として貯え、不漁年には、漁民の所得対策として緑化事業をしてはどうか。

水産業の振興に関しては水産資源増大への取り組みや経営安定のための支援を実施しているところであるが、不漁対策としては、対策が必要な状況が発生した時には、漁協などと協議をし、必要な対策を取りたいと考えている。現在のところ、町としては負担のかからない分収造林事業や「緑を守る会」の事業での緑化を行っているが、今後、提案のあった緑化の為の基金についても検討していきたい。

# 問 婚活・子育て支援について

## 答 国の動向を見ながら 推し進めていく

問 石川議員

いにもかかわらず、支援策が充実していると、必要ではないか。特に2子、3子に対する保育料の軽減や給食費など学校での費用に支援をすべきではないか。

答 町民生活課長

婚活事業については平成24年度に、男性20人女性17人が参加して行われたが、結婚までには至らなかった。今回は青年も参加した実行委員会方式で、あまり型式にこだわらず工夫したものを目指して、次年度以降も継続できる事業にしていきたいと考えている。

①人口減少が続く中で婚活は大切な事業だと考える。町は新年度予算で120万円の予算を付けているが、具体的にどのような取り組みをするつもりか。この際、青年団体に任せてみてはどうか。

②子育て支援について町長は町政執行方針では触れていないが、えりも町は出生率が全道1位で多子家庭が多



笛舞小学校入学式

3人目は無料となった。国では、年収360万円未満相当の世帯をモデルケースとして、同時入所に限らず、同一世帯の第2子については保育料を半額に、3子については無料とする案を検討している。国の動向を見ながら対応して参りたい。学校関係の費用については、生活困窮世帯に対して助成をする町単独事業を平成17年度から行っている。





**議会改革の一環で、平成24年度から始まった「議員と語る会」今回で4回目を迎え、4月15日から21日まで3班編成で全地区をまわり、延べ64名の町民の方に参加していただきました。各会場からいろいろな意見をいただきましたのでその一部を紹介します。**

## ◎教育・子育て

- ◎えりも高校は、二間口では1クラス当たりの人数が少ないのではないのか。(西えりも)
- ◎スクールバスをスポーツ少年団等の活動で使用できるよう規則を緩和できないのか。(東洋)
- ◎子供の外で遊べる環境の整備をすべきでは。(東洋)
  - ・気候環境の変化の為、スケートリンク施設が使用できないので移転をしてはどうか。
- ◎スポーツ少年団やクラブ活動等の遠征費の助成をしてほしい。(東洋)
- ◎えりも高校の中高一貫教育や教育環境の優位性をもっとPRすべきでは。(東洋)
- ◎岬小学校の学校給食の早期開始を。(岬)
- ◎岬小学校のグラウンドの整備をしてほしい。(岬)
- ◎道立漁業研修所の受講者が増えたら、助成枠も増えるのか。(笛舞)
- ◎小学校の机の天板だけでなく、椅子も擦り減っているので新しくしてほしい。(笛舞)
- ◎中学校の楽器保管室に除湿器を設置すべき。(笛舞)
- ◎えりも中学校の1年生は40名で、2クラス編成に出来なかったのか。※日高管内では、平取中学校は、40人以下でも2クラス編成である。(笛舞)
- ◎老朽化している庶野保育所の物品庫と車庫の整備をしてほしい。※強風で倒壊の恐れあり(庶野)

## ◎有害鳥獣対策

- ◎エゾシカ対策の強化を(近浦・目黒)
  - ・ハンターの育成(ハンターの高齢化)
  - ・ネットの強化・修繕(ネットを高くする)
  - ・川を渡るシカの対策を検討するべきでは。
- ◎アライグマがえりもに繁殖し始めているので早期の対策をするべきでは。

## ◎産業振興

- ◎うにの種苗施設の生産能力が落ちている。(西えりも)
  - ・町と組合と連携をして、生産力が上がるようにしてほしい。
  - ・種苗施設の給水管の経年劣化が目立つので改善をしてほしい。稼働から30年が経過している。
- ◎ふるさと納税を多く増やすための工夫を。(西えりも)
- ◎豊似湖の活用をもっとすべきでは。(西えりも)
- ◎観光分野なども含め、近隣町村との広域連携を進めていくべきでは。(西えりも)
- ◎アザラシの被害を逆手にとったPR活動や観光のアイデアを発案するべきでは。(東洋)
- ◎不漁対策や不漁時の保険の見直し充実を。(東洋)
- ◎休農地の有効活用をすべきでは。(東洋)
- ◎消失したえりも岬レストハウスはこれからどうするか。(東洋・庶野)
- ◎昆布選葉の作業軽減や漁業権の規制緩和を。(東洋)
- ◎ヨーネ病による畜産家の窮状に支援をすべき。(歌別)
- ◎ふるさと納税寄付金はどのような事業に使ったのか明らかにしてほしい。(歌別)
- ◎豊似湖観光の遊覧ヘリコプター事業の遊覧時間が短すぎる。(庶野)

## ◎建設事業

- ◎温水プールの設置を。(近浦・西えりも・東洋)
- ◎高齢者や若者も使用できるトレーニング施設を建設して欲しい(西えりも)
- ◎複合施設を建設に際して陸上競技場はどうなるのか。(笛舞)
- ◎複合施設内に柔道場の建設をしてほしい。(笛舞)
- ◎町民体育館にシャワー室がほしい。※町外団体の合宿所誘致のためにも(笛舞)





# これからのえりもを考える 議員と語る会

## ◎高齢者福祉

- ◎老人ホームを建設してほしい。(西えりも)
- ◎これから増加していく買い物難民対策が必要ではないのか。(東洋)
- ◎介護者の負担を減らすために、1泊や2泊でもいいので預かってもらえる施設を。介護者のストレス発散や買い物等で遠出できるようなサービスを。(東洋)
- ◎やまと苑の増床をしてほしい。(目黒)



## ◎人口対策

- ◎若手役場職員の対応等の育成強化を(目黒・岬)
- ◎複合施設建設の具体像をしめしてほしい。(歌別・庶野)
- ◎防災備蓄品の管理は誰がするのか。(庶野)

## ◎環境改善

- ◎教員住宅の利活用を(近浦・笛舞)
  - ・老朽化した教員住宅の修繕をすべきでは。
- ◎浄化槽設置補助金が65万円から45万円に減額された理由は？(笛舞)
- ◎町外業者が施工した場合でも住宅改修工事補助金の対象にしてほしい。(笛舞)
- ◎笛舞地区の公営住宅の整備をしてほしい。(笛舞)
  - ・公営住宅の家賃が高く、老朽化している。若者が地域から離れていく原因の一つとなっている。
- ◎外科医不在のなか、総合診療医を置く選択肢を考えてはどうか。(歌別)
- ◎除雪後吹き溜まりができて危険な箇所がある。(歌別)
- ◎高齢者センターの営業時間を午後10時頃まで延長してほしい。(庶野)
- ◎防犯灯の設置・LED化の助成を増やしてほしい。(目黒・歌別・笛舞)
  - ・防犯灯をLEDに変えている箇所の調査をして事業化し、LEDに変える事で大幅に電気料金の節約をすべきでは。

## ◎その他

- ◎婚活支援をどう進めるのか。(近浦・東洋・岬)
  - ・婚活を男性、女性ともにえりもから募集しては。
  - ・近隣町村で広域な婚活パーティをしてはどうか。
  - ・婚活支援の成果のあがる様な企画運営を。
- ◎子供を増やす・若者がえりもに残るには、どうすべきか真剣に考えていくべきだ。(西えりも・東洋)
  - ・子育て環境や就職先の確保など更に進めるべきだ。

今回で、4回目を迎えた「議員と語る会」まだまだ物足りないと思われている事と感じています。これからも試行錯誤を重ねて、きたんのないご意見をいただき充実した内容を目指していきますので、来年も皆様のご参加をお待ちしています。



# この人に聞く

MADLISON・P・STEWART  
 (マディソン・P・スチュアートさん)



・ 出生地 アメリカ カンザス州

・ 2015年7月よりえりも町へ赴任

・ 好きな食べ物

おにぎり(おなか) ラーメン・かつ丼(丼ものが大好き!)

・ 趣味 旅行(韓国・日本・メキシコ・カナダ渡航)

Q YOUは、どうして日本に?

A 大学時代に日本に留学して(大阪)その時、とても日本が好きになりました。

今回の「この人に聞く」

は、昨年7月よりALIT(外国語指導助手)に赴任されたキュートなルックス優しい笑顔、マギーでお馴染みのマディソンさん。えりも高校の英語の授業におじゃましてきました。

Q えりもの印象は?

A 綺麗。海がきれい。サルル山道から見る景色にとっても感動しました。そして、生徒たちがとても元気で、英語の授業をするのが楽しいです。

Q 旅行が趣味だそうです。旅行先は?

A 沖縄と函館。きれいな海が見たい。それと留学時代のホストファミリーの住む大阪にもまた行きたい。

Q アメリカ大統領選が行われていますが、トランプ候補はどうですか?

授業中は、生徒も英語だけを使って授業を進めています。授業内容は、マギーから出された英単語をチームで考えて答え、正解するとマスを進める事ができるマギーの考案したゲーム。みんなで楽しく笑顔あふれる授業風景が印象的でした。



A トランプ候補は、嫌い。サウダース候補がいいと思う。大学の無償化や最低賃金引き上げなどが主張政策で、若い年齢層や学生などに支持される候補のようですね。

# 編集後記

議会としては一番大切な3月定例会も終わり、一息つく間もなく議会広報の編集に入りました。

3月、4月は卒業と入学式の出席が続き、我が子の成長に涙するお母さん達の顔を見ると、ついこちらももらい泣きというシーンが度々です。

別れと出会いが子供たちをまた成長させる機会になっています。この広報が届くころには桜も咲き何かと忙しい頃かと思いますが、えりも町の健康診断受診率は全道でも最低だそうです。今年、是非とも受診をして豊漁、豊作に備えましょう。

(五)

## 議会の動き

2月4日	・日高地区交通災害共済組合議会
2月8日	・第5回臨時会
2月12日	・ICTセミナー
2月25日	・議会運営委員会
3月1日	・えりも高校卒業証書授与式
3月2日 ～11日	・3月定例会 ・全員協議会 ・予算特別委員会 ・広報特別委員会
3月8日	・えりも岬ウィンディーズ壮行会
3月24日	・日高東部消防・衛生組合議会
4月5日	・広報広聴常任委員会
4月8日	・えりも高校入学式 ・議員と語る会勉強会
4月12日	・広報広聴常任委員会
4月15日 ～21日	・議員と語る会
4月22日	・広報広聴常任委員会

### 広報広聴常任委員会委員

委員長 高松 亮裕  
 副委員長 近藤 一郎  
 委員 川村 一治  
 石川 昭彦  
 大坂 庄吉